

アスベスト大気濃度調査結果について（平成 20 年度）

環境省



環境省では、石綿による大気汚染の現状を把握し、今後の対策の検討に当たっての基礎資料とするとともに、国民に対する情報提供を目的に、平成 17 年度より建築物の解体工事等の作業現場などにおいて、大気中の石綿濃度測定を行っています。

その平成 20 年度の結果について発表がありました。

概要は、以下のとおりです。

1. 調査地点:石綿製品製造事業場等、廃棄物処分場等及び建築物解体工事等の作業現場計 50 地域 149 地点
2. 測定方法:アスベストモニタリングマニュアル(第3版)
3. 調査結果:石綿の飛散が懸念される廃棄物処分場等及び解体現場等では、特に高い濃度はありませんでしたが、一部の解体現場において総繊維数が高く測定されたため、参考法である分析走査電子顕微鏡法に基づき、繊維の種類同定を実施した結果、アスベストの一つであるアモサイトが確認されました。これらの現場においては、直ちに所管自治体に連絡し、飛散防止措置等の適切な指導がなされました。なお、これらの現場においても、敷地境界の石綿濃度は基準値内で、周辺の汚染は生じていないと思われまます。
4. 今後の対応:環境省では、平成 21 年度も引き続き大気環境モニタリング調査を行う予定ですが、モニタリング方法については、従来クリソタイルを中心とした測定方法を実施してきましたが、今後クリソタイル以外の石綿も含め、環境中の石綿をより効率的に把握できる方法について検討し、マニュアルを改訂していく予定です。

当社では、プラズマリアクターを用いた空気中のアスベスト 6 種類の分析も実施しております。疑問点・お困りのことなど、まずは、お気軽にご相談ください。

資料 2009 年 5 月 29 日付 環境省HP

品質検査箇所 加藤吉紀